

<現認書の記載例>

1 現認書を添付する場合

現認書は、災害発生の事実に係る添付書類であり、

- ・ 同僚職員等が災害発生の現場に居合わせ、災害発生状況を見ていた
- ・ 同僚職員等が災害により負傷を負った直後の状況（例えば、血を流しながら駆け込んできたというような状況）を見ていた

といったように、災害に係る現認者がいる場合に添付することが必要となる書類です。

この場合の現認者は、同僚職員等で同一任命権者内の職員に限っており、当該職員以外の一般の人はここでいう現認者には該当しません。

また、災害発生当時、現場に職員が居合わせた場合でも、双方の職員が同一災害により被災しているときは、それぞれが被災職員であり、**被災職員同士の相互現認は認められません**し、居合わせた職員が当該災害の加害者である場合の**加害者による現認も認められません**。

なお、公務(通勤)災害認定請求に当たっては、原則として現認書の提出が必要となりますが、現認者がいない場合又は現認者が被災職員若しくは加害者である場合は、現認書に代えて事実証明書を提出してください。

2 現認書の記載事項等に係る注意事項

(1) 記載者

現認書の記載者は、現認者すなわち災害発生状況等を現認していた同僚職員等です。なお、現認者に災害発生状況等を書いてほしいと依頼しても、どのように書けばよいのか戸惑う場合も多いと思われます。このため、所属において現認書に書くべき内容を整理し、また、記載例等を示すなどして、現認者が現認書を書きやすくなるように積極的に協力してください。

(2) 現認した内容

現認した内容は、次により記載してください。

現認者が何をしていたときに	市道〇〇線舗装補修工事に係るマンホール嵩上げ工事中
何が起き	マンホールの蓋の組込作業をしていた同僚の〇〇技師が突然「痛い」と叫んだので、顔をあげたところ、
どのような結果が起きたか	同人がマンホールの蓋と枠の間に左第2指をはさんでいるのを現認しました。

(3) 記載年月日等

現認書には、その現認書を記載した年月日、現認者の所属、職・氏名を記載してください。

現 認 書

現認者がいる場合は、必ず現認書を添付。
現認者がいない場合は、所属長の事実証明書を添付してください。

被災職員	所 属	〇〇市〇〇部〇〇課
	氏 名	神奈川 太郎

1 現認した日時	令和〇年 〇月 〇日 (金 曜日) 午前 (午後) 〇時 〇分頃
2 現認した場所	〇〇市役所〇〇〇
3 現認した内容	【記載例1】 被災職員▲▲▲▲と私が、資材の片方ずつを持ち上げ、2人でトラックの荷台に積み込もうとした際、▲▲▲が トラックの荷台と資材との間に右手を挟んでしまいました。 【記載例2】 私が職員室で翌日の授業の作業をしていると、同僚の▲▲▲さんが、頭から血を流しながら職員室に入って来ました。どうしたのかと聞いたところ、「教室で児童用ロッカーの上に乗って、美術の作品を掲示し終え、降りようとしたところ、足を踏み外し、頭から床に落ちたが、たいしたことはない」と言いながらも、頭部を押さえていました。
4 現認後の対応	【記載例1】 特に対応はしませんでした 【記載例2】 負傷した事実を教頭に伝えました。

上記のとおり現認しました。 令和〇年 〇月 〇日	現 認 者 所 属 〇〇市〇〇部〇〇課 (同僚職員等)
	職・氏名 □□ ▲▲ ▲▲

(注) 同僚職員による第三者加害事案の場合は、相手方以外の職員が記入すること。

被災職員同士の相互現認及び加害者による現認は認められないため、事実証明書を添付してください。